平成23年産農畜産物に係る
十勝管内農協取扱高について〔概算〕

（平成２３年１２月２０日
十勝地区農業協同組合長会
十勝農業協同組合連合会
十勝総合振興局産業振興部）

１　考え方

本集計は、平成23年産農畜産物に係る十勝管内24農業協同組合の取扱見込額について、各農協ごとに試算した概算値の集計であり、商系取扱高（農協以外の一般商社等取扱分）は含んでいないことから、十勝管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、戸別所得補償交付金、加工原料乳生産者補給金を含む。

なお、本集計には収入減少影響緩和対策交付金、畑地の産地資金、農業共済金支払額は含まない。

２　平成23年の概要

農協取扱高は、耕種部門の収量・品質確保と畜産部門の増収により、２，５２５億円

◇耕種部門取扱高◇　１，１４６億円（対前年比　１０９％　［構成比４５％］）

本年は、９月の台風等による大雨により、菜豆類において品質低下が見られたものの、小麦、ばれいしょ、てんさいなどは昨年に比べ収量・品質を確保。

一方、野菜は価格低下の影響により前年を下回る結果。

○　小麦は、登熟期の高温等により細麦傾向となり、製品歩留まりは低下したが、昨年に比べ収量・品質とも向上したことから、前年比57％増。

○　豆類は、９月の高温、多雨の影響で、菜豆で発芽・腐敗粒が発生し、規格外品の比率が高まったが、大豆、小豆が平年以上の収量を確保したことから、全体では前年比４％増。

○　ばれいしょは、８月上旬の高温により地上部の茎葉枯凋の進行や収穫期の降雨により収穫作業が遅延したものの、収量はほぼ平年並みとなり、前年比８％増。

○　てんさいは、８月から９月にかけての高温多雨の影響から糖分の低下がみられたものの、昨年に比べ収量・糖分とも向上したことから、前年比42％増。

○　野菜は、９月、10月の継続的な降雨等の影響によるながいもの収量減やにんじんの価格低下等から、前年比４％減。

◇畜産部門取扱高◇　１，３７９億円（対前年比　１０３％　［構成比５５％］）

○　酪農は、昨年の猛暑の影響により７月までの生乳生産量は前年を下回ったが、８月以降生乳生産量が回復したことや、乳価の上昇などから、前年比３％増。

○　肉用牛は、景気の低迷と原発事故等の影響により、牛肉消費が減退し、枝肉価格が下落したものの、と畜頭数や家畜市場での取引頭数の増加により、前年比５％増。

３　取扱高集計結果

（単位：億円、％）

区分		平成23年 取扱高	平成23年 構成比	平成22年 取扱高	平成22年 構成比	対前年比 取扱高	対前年比 比率
耕種	麦類	83	3.3	53	2.2	30	157
	雑穀・豆類	124	4.9	119	5.0	5	104
	ばれいしょ	213	8.4	198	8.3	15	108
	てんさい	179	7.1	126	5.3	53	142
	野菜	212	8.4	221	9.3	▲ 9	96
	その他	4	0.2	9	0.4	▲ 5	44
	戸別補償等	331	13.1	322	13.5	9	103
	小計	1,146	45.4	1,048	44.0	98	109
畜産	酪農	939	37.2	908	38.2	31	103
	生乳	817	32.4	805	33.8	12	101
	肉用牛	408	16.1	387	16.3	21	105
	豚・鶏	15	0.6	16	0.7	▲ 1	94
	その他	17	0.7	21	0.8	▲ 4	81
	小計	1,379	54.6	1,332	56.0	47	103
総合計		2,525	100.0	2,380	100.0	145	106

※　取扱高は税抜き。

※　「戸別補償等」欄の２２年は、水田・畑作経営所得安定対策の固定払・成績払、先進的小麦等支援事業助成金の合計。